

総合課程 一般教育科目 科目配当表 (2年生)

(平成31/2019年度入学者用)

※科目名のリンクをクリックすることで科目のシラバスにジャンプします

授 業 科 目 名	講/演/実	履修年次	必修/選択	単位数	時間数
A一般教育科目					
①教養教育科目					
(共通)					
総合講義	講	2	必	2	36
キャリアデザイン	講	2	必	2	36
(人文・社会分野)					
心理学	講	1～4	選	2	36
経済学	講	1～4	選	2	36
工業法規	講	1～4	選	2	36
職業生活と法	講	1～4	選	2	36
(総合分野)					
環境と社会	講	1～4	選	2	36
科学技術と人間	講	1～4	選	2	36
情報技術と社会	講	1～4	選	2	36
デザイン学	講	1～4	選	2	36
日本語表現技法	講	1～4	選	2	36
自主企画実践	演	1～4	選	2	36
②基礎教育科目					
統計学	講	2	必	2	36
③外国語科目					
英語Ⅲ	講	2	必	2	36
英語Ⅳ	講	2	必	2	36
ビジネスコミュニケーションⅠ	講	2	必	2	36
ビジネスコミュニケーションⅡ	講	2	必	2	36
④健康科学科目					
健康科学Ⅱ	演	2	必	2	36
⑤生産マネジメントに関する科目					
生産工学概論	講	2	必	2	36

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者 (ユニット名)
全専攻		総合講義 (General course on science, technology, social and human studies)	2単位 (36H)	教員16名 (内容欄参照)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	2年次後期		必修	

授業の目的と概要

広い一般教養を形成することを目的として、科学・技術および人文社会科学の様々な分野にわたり、専門の学識を踏まえながら専門外の人にも関心を持ってもらえるようなテーマでの講義をオムニバス形式で行う。受講者は学問的知識と人間社会のかかわりについて考え、自ら興味関心を持って知識を深め研究する意欲と態度を養う。

【オムニバス形式】

到達目標

科学・技術および人文社会科学の様々な分野にわたり、学問的知識と人間社会のかかわりについて考え、自ら興味関心を持って知識を深め研究する意欲と態度を養う。

授業計画

授業計画		備考
1	技能・技術における職業訓練の役割	10/ 1 原 圭吾
2	人類の歴史とものづくり	10/ 8 圓川 隆夫
3	数学と工学・物理学(Radon変換を通して)	10/15 石川 哲
4	極大と極小を結ぶ	10/22 伊賀 昌久(外部講師)
5	立体造形と漆芸	10/29 繁昌 孝二
6	自然災害と防災・危機管理	11/ 5 領木 邦浩
7	生体工学とは	11/12 不破 輝彦
8	ストリームデータと機械学習	11/26 大野 成義
9	福祉工学の現在	12/ 3 池田 知純
10	ものづくりマネジメントの発展系譜	12/10 平野 健次
11	電気を利用した人類	1/ 7 渡邊 信公(外部講師)
12	電子情報技術のトレンド	1/14 小野寺 理文
13	職業訓練指導員のやりがいと波及効果	1/21 深江 裕忠
14	電気電子材料の社会とのかかわり	1/28 柿下 和彦
15	機械と私たち	2/ 4 二宮 敬一
16	建築と人間	2/18 遠藤 龍司(外部講師)
17	レポート作成	2/25 演習(全教員)
18	レポート作成	3/ 9 演習(全教員)

評価方法

出席および各回のリアクションペーパーの総計により評価する。
毎回の講義担当者へリアクションペーパーを提出して下さい。

教科書及び参考書

教科書： 授業内で指示する

主な使用機器等

PC、プロジェクタ、書画投影装置

その他

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		キャリアデザイン (Career Design)	2単位 (36H)	新目 真紀
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義			
履修年次 開講時期	2年次前期			

授業の目的と概要
<p>【目的】自分自身の大学生活や職業人生（キャリア）について自らが主体となって構想し、実現していくためのキャリアデザイン能力を養成する。本科目では、講義と演習を通して「生産技術」という専門性を活かしたキャリアを形成するために、学生生活の目的・目標を明確にし、目標に向けた行動計画（キャリアプラン）を立てられるようになるための知識・技能・態度を習得する。</p> <p>【概要】本講義前半では、キャリアデザインをする上で必要となる基礎知識の習得を目的とした小テストの実施と、知識の活用を目的とした演習を実施する。後半ではインターンシップの実施計画の立案や発表、自主的に活動計画の立案や発表を通してキャリアプランに必要な能力を養成する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> キャリアとは何かを理解し、学生生活の目的・目標を明確にできる。 キャリアをデザインする上では、さまざまな体験を通して自己理解を深めることが重要になることが指摘できる。 社会人基礎力や21世紀スキルとはどのような能力かを理解し、社会人基礎力を基に自身の強み弱みを推察できる。 インターンシップや自主企画の実践(啓発的経験)が「生産技術」という専門性を活かしたキャリアを形成に果たす役割を理解する。

授業計画		備考
1	オリエンテーション 自分のキャリアを考える	講義・演習(視聴覚教室)
2	自己理解を深める(1)(興味・価値観・能力)	講義・演習(視聴覚教室)
3	職業理解を深める(2)(これまでの経験を振り返る)	講義・演習(視聴覚教室)
4	ジョブ・カードの活用(1)	講義・演習(3201)
5	ジョブ・カードの活用(1)	講義・演習(3201)
6	社会人基礎力、21世紀スキルとは何かを考える(1)	講義・演習(3201)
7	社会人基礎力、21世紀スキルとは何かを考える(2)	講義・演習(3201)
8	社会人基礎力、21世紀スキルとは何かを考える(2)	講義・演習(3201)
9	インターンシップの実施計画作成 (1)調査	講義・演習(3201)
10	インターンシップの実施計画作成 (2)企画書作成	講義・演習(3201)
11	インターンシップの実施計画作成 (3)発表	講義・演習(視聴覚教室)
12	インターンシップの実施計画作成 (4)発表	講義・演習(視聴覚教室)
13	自主的な活動の実施計画作成 (1)企画 個人	講義・演習(視聴覚教室)
14	自主的な活動の実施計画作成 (2)企画 グループ	講義・演習(視聴覚教室)
15	自主的な活動の実施計画作成 (4)企画 発表	講義・演習(視聴覚教室)
16	大学生活でのキャリアデザイン、キャリアプランを考える	講義・演習(視聴覚教室)
17	これから10年間のキャリアプランの作成 レポート課題	
18	これから10年間のキャリアプランの作成 レポート課題	

評価方法	小テスト、レポート課題(40%)、発表(40%)、授業参加度(20%)
教科書及び参考書	授業内で随時資料を配布する
主な使用機器等	パソコン、プロジェクト
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		心理学 (Psychology)	2単位 (36H)	坪田 光平 (外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1~4年次前期		選択	

授業の目的と概要
<p>【目的】 現代社会において、「人の心理」に配慮的な人間関係の構築は広く社会生活全般に及んで求められている。このため、対人関係をめぐるトラブル・原因・対処に焦点をあて、心理学理論に即して説明できるようになること。</p> <p>【概要】 「人の心がなぜどのように作用するのか」を紐解こうとする心理学の歴史と理論を、心理学実験のプロセスと抱き合わせて提示する。その際、基礎的な心理テストや事例検討、ディスカッションを取り入れ、心理学で提示される法則とその妥当性を体験的に学習する。講義の他、コメントペーパーへの質疑応答、映像資料を交えて授業を進める。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係を阻害したり円滑化したりする背景に、どのような心理学的な要因が影響しているかを説明することができる。 2. 人の認知・判断・行動のプロセスを理解し、社会生活で生起する現象を心理学的に説明することができる。 3. 対人関係を良好にする諸要因についての理解を踏まえ、基礎的なコミュニケーション技法を実践することができる。

授業計画		備考
1	イントロダクションー世俗化された心理学イメージと学問としての心理学の相違	
2	対人関係における印象形成ー(1)環境要因	
3	対人関係における印象形成ー(2)他者要因と環境要因	
4	ヒューマンエラー/チームエラーの認知心理学	
5	学習特性と動機づけ	
6	対人援助行動のプロセス	
7	集団心理ー(1)集団の定義と分類	
8	集団心理ー(2)同調行動と意思決定	
9	中間試験	
10	攻撃性の心理学ー(1)攻撃概念と二過程モデル	
11	攻撃性の心理学ー(2)平等と公正の理論	
12	対人コミュニケーションの科学ー(1)言語・非言語的コミュニケーション	
13	対人コミュニケーションの科学ー(2)異文化間コミュニケーション	
14	自己意識の形成と人の行動ー(1)自己意識と自己概念	
15	自己意識の形成と人の行動ー(2)自己評価と自己呈示	
16	アイデンティティの形成と場の複数性	
17	職業選択と社会的ネットワーク理論	
18	期末試験	

評価方法	筆記試験60点以上を合格とする。中間試験(50%)、期末試験(50%)の平均点が60点以上の者を合格とする。
教科書及び参考書	教科書: 講義資料を別途配布する。 参考書: 関連文献を適宜紹介する。
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ
その他	グループワークへの積極的な参加を求める。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者 (ユニット名)
全専攻		経済学 (Economics)	2単位 (36H)	和泉 徹彦 (外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1~4年次後期		選択	

授業の目的と概要
<p>【目的】本科目では経済学の入り口に立って、現実社会と経済学とのつながりを指し示し、社会で使われる用語をその背景とともに理解できることを目指す。</p> <p>【概要】経済学と現代の私たちの生活との関わりについての理解を深めるための講義を行う。経済学を学んだからといってお金持ちになれるわけではない。もともと経済学は経世済民という言葉から作られた造語で、世のため人のための学問である。世の中の仕組みには人が作り出したもの、自然発生的に秩序ができあがっているもの、と様々であり、それを見抜く力を備えるのが経済学の目的の一つである。</p>

到達目標
(1)経済学の基本的な用語を説明できること (2)経済学の基本的な用語を使って、基本的な経済学の仕組みを説明できること (3)GDP・物価・金利の短期・長期の関係性への理解 (4)国家と経済の関わりへの理解 (5)消費者と経済の関わりへの理解

授業計画		備考
1	イントロダクション(本科目の位置づけと関連テーマについて)	
2	お金の歴史	
3	信用創造	
4	GDP・物価・金利	
5	売り手の気持ち、買い手の気持ち	
6	株式会社とそれ取り巻く人々	
7	採用、雇用と失業	
8	企業の資金調達	
9	企業活動の国際化と国内経済	
10	国家と経済の関わり	
11	税金の話	
12	消費と貯蓄	
13	情報の経済学	
14	福祉と経済の関わり	
15	生産と費用	
16	期末試験	
17	現代経済の時事問題	
18	試験結果講評	

評価方法	期末試験を実施する。加えて授業時課題を毎回提出してもらう。 試験には細分化された到達目標(1)~(5)を含むものが出題される。 毎回の提出課題(40%)、定期試験(60%)
教科書及び参考書	井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA/中経出版、2015年
主な使用機器等	
その他	出席管理は授業時課題の提出によって行う。授業に参加しない者は出席者として認めない。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		工業法規 (Industrial Laws and Regulations)	2単位 (36H)	和田 雅宏
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	3年次後期		選必	

授業の目的と概要
<p>【目的】 ものづくりを進めていく上で、法規に関する知識を早い時期から意識しておくことが必要である。法規に関する知識について、実際の事例をまじえながら体系的に学習する。</p> <p>【概要】 本講義では、ものづくりの現場で実際に必要となりやすい工業法規に焦点を絞って、広く知識を獲得する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりに関する基本的な法律について指摘できる。 2. 知的財産について正しい対応ができる。

授業計画		備考
1	ものづくりと法規に関する基本的知識、ガイダンス	
2	製造物責任法(PL法) 製造者と販売者	
3	ISO9000 品質マネジメントシステム①	
4	ISO9000 品質マネジメントシステム②	
5	ISO14000 環境マネジメントシステム	
6	工場立地法 緑地面積	
7	環境基本法 大気汚染防止法 水質汚濁防止法 騒音規制法 振動規制法	
8	特許制度概要	
9	研究活動と知的財産	
10	発明は誰のものか	
11	特許明細書の書き方	
12	特許明細書演習	
13	著作権 実用新案	
14	意匠 商標	
15	不正競争防止法	
16	輸出貿易管理令 キャッチオール規制等	
17	まとめと復習	
18	期末試験	

評価方法	出席状況(50%)、演習問題(30%)及び期末試験(20%)により評価する。
教科書及び参考書	教科書： 講義レジュメを使用する。 参考書： 各法規について、所管官庁ホームページの解説を参考にできる。
主な使用機器等	ノートパソコン、ビデオ、液晶プロジェクタ
その他	

図表1 職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		職業生活と法 (Working Life and Law)	2単位 (36H)	田原 孝明
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1～4年次後期		選択	

授業の目的と概要
<p>【目的】 皆さんの多くは卒業してから、40～50年間働くことになる。職業生活を取り巻く環境、制度は大きく変容している。納得した職業生活を送る一つの助けとして、この授業では、職業生活をめぐる状況や、これに関連する法や制度の理解を深めていく。</p> <p>【概要】 職業生活を取り巻く環境、制度(労働法や労働法や労働政策など)を紹介することによって、法や制度の理解を深める。各講義の中で小テストを行い、知識の定着を図る。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業生活をめぐる課題について、法や政策がどのようになっているのか、どのように対応すれば良いのかについて、説明できること 2. 特に、労働時間や賃金といった中核的な事項について、法や制度のポイントを説明できること

授業計画		備考
1	はじめに、労働法とは、日本の人口構造、少子化対策	
2	雇用失業情勢、就業構造、雇用調整助成金	
3	若年者雇用対策(就職活動編)	
4	若年者雇用対策(入社編)	
5	労働ラブルの解決	
6	賃金編	
7	労働時間編	
8	休日、休暇編	
9	退職、雇用保険編	
10	安全衛生、労災補償編	
11	非正規労働者編	
12	高齢者雇用、障害者雇用、外国人労働者編	
13	職業能力開発行政編(1)	
14	職業能力開発行政編(2)	
15	労働ラブルの解決に向けて(ディスカッション)	
16	労働ラブルの解決に向けて(ディスカッション)	
17	予備	
18	予備	

評価方法	各講義の中で行う小テストによって評価する。
教科書及び参考書	毎回資料を配布。参考書があれば、授業の中で紹介する。
主な使用機器等	特になし

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		環境と社会 (Environmental Problem in Contemporary Society)	2単位 (36H)	吉田 央 (外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1～4年次後期		選択	

授業の目的と概要

かつて日本では重大な産業公害が発生し、多数の被害者を生じてしまった。このような産業公害を再び繰り返さないためには、その歴史から教訓を学ばなければならない。さらに近年の環境問題は、公害防止という面だけでなく、新しいビジネスの源にもなっている。この授業では、公害の歴史とそこから学ぶべき教訓を踏まえた上で、これからの環境ビジネスの展望を述べたい。

到達目標

1. 公害問題の歴史を知り、それが繰り返されないための教訓を説明できる。
2. 現在のグローバルな環境問題と、環境ビジネスについて説明できる。
3. 環境問題・環境ビジネスに関する知識を、社会全体の動きと結び付けて理解している。

授業計画

授業計画		備考
1	公害問題とはどういう問題だったか	
2	日本の経済成長と社会の変化	
3	経済成長と公害問題	
4	公害と裁判	
5	食品汚染と薬害問題	
6	東西対立とは何だったか	
7	東西対立と原子力(福島原発事故が起きるまで)	
8	福島原発事故の東京電力経営への影響(企業会計の基本)	
9	株式会社制度と公害問題	
10	保険制度と公害問題	
11	地域格差と立地問題・国土開発(産業構造の変化と経済成長)	
12	水資源開発とダム問題	
13	まちづくりと都市の環境	
14	廃棄物問題とリサイクル	
15	南北問題とはどういう問題か	
16	温暖化防止の世界的取り決め	
17	再生可能エネルギービジネス	
18	全体のまとめ	

評価方法

毎回小レポート提出

教科書及び参考書

プリントを配布する。参考書は授業中に指示する。

主な使用機器等

その他

授業は、最初に授業のテーマに関する基礎知識を説明し、次にそれについて議論して理解を深め、最後にレポートにまとめて提出という形式で行う。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		科学技術と人間 (Science, Technology and Human)	2単位 (36H)	不破 輝彦 原 圭吾 池田 知純
科目・コース 区分	一般教育科目		必修/選択	
授業形態	講義			
履修年次 開講時期	1~4年次前期		選択	

授業の目的と概要

【目的】 ハードウェア(道具、機器等)、ソフトウェア(コンピュータアプリケーション等)、環境(生活環境、作業環境等)、各種の制度などをシステムと総称するとき、システムと人間との適切な関係を構築するための理論を学習する。授業では、産業革命以降、科学技術が発展してものづくりの現場で人間はどうすれば安全に作業できるのか、科学技術の成果としての機器等を人間が安全・快適・効率的に使うためには、どのように機器等を設計すればよいのか、ものづくり技能者、高齢者あるいは障害者に対して最新の科学技術をどのように活用すれば、それから何が分かり、どのようなメリットがあるのかについて考える。将来、安全・快適な機器や生活環境などを設計するときや、ものづくり技能を科学的に評価しようとするときに、本授業の内容を活用することができる。

【概要】 人間に関する各種の理論(人間工学、人間中心設計原理、技能科学、福祉工学、認知科学)を通して、科学技術と人間がどのように関わっているのかを理解する。

【オムニバス方式】

到達目標

1. 産業革命以降、急速な機械化のなかで、人間の労働を科学的に検証する必要性を説明できる。
2. 人間を取り囲むシステムにおいて、システムを構成する個々のモノと人間との適性化をはかるための考え方を説明できる。
3. 人間の知覚・記憶・認知・思考・行動のモデルを用いて、ものづくり技能と人間の行動を説明できる。
4. あらゆる人が使いやすいと感じる設計の考え方や、高齢・障害者のための科学技術の活用について説明できる。
5. 各種の技術を用いて人間を測定することにより、何が分かるのかを説明できる。

授業計画

授業計画		備考
1	ガイダンス、人間に関する各種の理論の概要紹介	不破
2	労働の科学としての「人間工学」の起源と発展	不破
3	人間中心設計とは何か	不破
4	「人間」と「技能」、「技術」、「暗黙知」との関係	不破
5	人間の情報処理過程をモデル化する	不破
6	人間を測る技術 — 生体電気信号の計測からわかること	不破
7	中間試験1	不破
8	人間を測る技術 — 知覚の計測からわかること	池田
9	高齢者・障害者の情報処理の体験	池田
10	ユニバーサルデザインとバリアフリー	池田
11	障害者・高齢者に対する支援技術	池田
12	ホームページなどWebサービスに対するアクセシビリティ	池田
13	中間試験2	池田
14	人間が無意識に犯す過誤 — ヒューマンエラーと、その対策	原
15	失敗の構成要素と構造化	原
16	安心・安全・環境の確保と社会的責務	原
17	期末試験	原
18	試験解説(再試験、追試験)	不破、池田、原

評価方法	中間試験1回目(50%)、中間試験2回目(30%)、期末試験(20%)
教科書及び参考書	教科書:技能科学入門(PТУ技能科学研究会編 日科技連出版社 ISBN:9784817196408)
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		情報技術と社会 (Information Technology and Information Society)	2単位 (36H)	山崎 彰一郎
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1～4年次		選択	

授業の目的と概要
<p>目的:(1) 情報のデジタル化とネットワーク化などの技術の概要、(2) 情報を獲得した状況における意思決定法、(3) 個人情報や知的財産などの侵害に対する情報セキュリティの課題、(4) 進展している情報技術の社会や職業への影響を修得することを目的とする。</p> <p>概要: デジタル化された情報がネットワークを介して人や機械の間を行き来するデジタル情報ネットワークの基礎、情報を獲得した状況における個人や組織の意思決定法などを学習した上で、情報技術の進展が様々なサービスを人間に提供し便利な社会を構築していることと、個人情報や知的財産への侵害、情報技術の職業への影響など様々な課題を生んでいること学習する。</p>

到達目標
<p>進展している情報技術の概要と、これらの技術が社会にもたらす恩恵と問題。社会や職業への影響に関して、自分の考えをまとめ説明できるようにすることを到達目標とする。</p>

授業計画		備考
1	情報の定義と役割	
2	情報のデジタル化	
3	情報のネットワーク化	
4	情報の統計的処理	
5	情報の特徴抽出	
6	情報技術と産業革命	
7	中間試験	
8	情報を獲得した状況における意思決定	
9	不確定な情報を獲得した状況における意思決定	
10	競合状況における意思決定	
11	意思決定における戦略	
12	中間試験	
13	情報セキュリティの概要	
14	情報セキュリティ対策の技術	
15	情報社会と法制度	
16	個人情報・知的財産の保護	
17	情報技術の職業への影響	
18	期末試験	

評価方法	授業中の演習、中間試験、期末試験から評価する。
教科書及び参考書	講義毎に資料を配布する。
主な使用機器等	
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全学科		デザイン学 (Study of The Design)	2単位 (36H)	坂元 愛史 (外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1~4年次後期		選択	

授業の目的と概要

本科目では、わかりやすく且つ共感が得られる伝達の技術としてのデザインを身につけることを目的とする。内容は、全員が参加するワークショップを行いながら、様々な発想と実際の表現を体験し、最終的には自分と他者のアプローチを比較することで理解を深める演習形式とする。

到達目標

1. 他者がみてわかりやすいデザインにするための要素を説明できる
2. 他者がみてわかりやすいデザインを行うことができる
3. 様々な発想を行うことができる
4. 様々な発想を表現することができる

授業計画

授業計画		備考
1	1. 平面表現 1 (1) 試作 個人作業	
2	(2) 検討、実制作 グループワーク	
3	(3) 発表と講評会	
4	2. 支えるデザイン (1) 発想	
5	(2) 制作1	
6	(3) 制作2	
7	(4) 制作3	
8	(5) 発表と講評会	
9	3. 中間試験	
10	4. 平面表現 2 (1) 試作 個人作業	
11	(2) 検討、実制作 グループワーク	
12	(3) 実制作 グループワーク	
13	(4) 発表と講評会	
14	5. 守るデザイン (1) 発想	
15	(2) 制作1	
16	(3) 制作2	
17	(4) 発表と講評会	
18	期末試験	

評価方法	課題ごとのプレゼンテーション評価(40%) 課題ごとの作品評価(60%)
教科書及び参考書	特に指定しない
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ、マーカー、制作のための素材(画用紙、マーカー、ヒノキ角棒、ミシン糸、ケント紙)
その他	筆記用具、定規、コンパス、カッター、ハサミ、接着剤、カッティングマット

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		自主企画実践 (Voluntary Planned Action)	単位 (36H)	全教員
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	演習		必修/選択	
履修年次 開講時期	1~4年次		選択	

授業の目的と概要
<p>この科目は学生が自主的に学習・研究を深めたいテーマを決め、学習・研究の企画を立案し、自ら進捗状況を管理し、その成果を総括して発表するものである。この自主企画実践のすべてのプロセスを通じて、みずから学びたいことを発見し、みずから学ぶという大学生として最重要な学習研究の能力を身につける。教員は学生の学びのプロセスを見守り、指導する。</p> <p>この科目を受講したい学生は、みずから学び・研究したいテーマについて、学習・研究の企画書を提出して、実践する承認を得る必要がある。教員の指導を受けた上で、企画が承認されるに至らない場合は単位認定できない。また、企画の実践に際しては経過報告を行い、その実施成果を総括した報告書を提出し、また口頭発表を行う。</p>

到達目標
自主的な学習を企画することができる。企画を立案し企画書を作成することができる。実行過程を管理することができる。成果をまとめて報告書を作成することができる。口頭発表を行うことができる。

授業計画		備考
1	オリエンテーション。この科目の進め方。	
2	自主企画の立案	
3	企画書の作成指導	
4	完成した企画書の提出	
5	企画の試行	
6	企画の報告と修正	
7	企画の実践(1)	
8	企画の実践(2)	
9	企画の実践(3)	
10	実践の振り返りと再調整	
11	企画の実践(4)	
12	企画の実践(5)	
13	企画の実践(6)	
14	実践の反省・総括	
15	報告書の作成(1)	
16	報告書の作成(2)修正と完成	
17	口頭発表の準備	
18	口頭発表	

評価方法	承認された企画について、その立案、実践、成果報告のすべてにわたって評価を行う。
教科書及び参考書	
主な使用機器等	
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名： 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		日本語表現技法 (Technical Writing and Presentation Skills in Japanese)	2単位 (36H)	不破 輝彦
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	1～4年次後期		選択	

授業の目的と概要
<p>【目的】 日本語表現のための技術として、理工系学生のための文書作成法およびプレゼンテーション技法を学習する。文書作成力は、就職試験における小論文作成や、卒業論文作成などに活用することができる。卒業後は、仕事の成果の報告書作成や、職業訓練指導員としてテキストの作成など、将来に渡って必須の能力である。プレゼンテーション能力も同様で、例えばインターンシップ報告会、卒業研究発表会での発表や、就職活動における自己紹介や説明力試験、卒業後は、仕事上のプレゼンテーションや学会での研究発表などに活用できる。</p> <p>【概要】 日本語表現法では、文章の立案、段落の構成、段落の書き方、説明の順番、文のわかりやすい構造、わかりやすい表現方法、と、文章の書き方を体系的に整理して学習し、適宜、具体的なテーマを決めて作文演習を行う。プレゼンテーション技法では、わかりやすい提示資料の作成方法、プレゼンテーションの構成、与えられた時間内でまとめる方法など、実際の場面を想定した演習を行う。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章の読者、文章の役割を考慮して、文章を作成できる。 2. 文章全体の組立て方、各段落の役割を考慮して、文章を作成できる。 3. 説明する順番、文と文の関係を考慮して、文章を作成できる。 4. わかりやすい表現の要点を考慮して、文章を作成できる。 5. プレゼンテーションの構成を考慮して、プレゼンテーションできる。 6. わかりやすく見やすいプレゼンテーション用の提示資料を作成できる。 7. 指定された時間内で、わかりやすく見やすい資料を提示しながら、自分の考えなどをプレゼンテーションできる。

授業計画		備考
1	ガイダンス、日本語文書作成法、プレゼンテーション技法を学ぶ必要性	
2	日本語文書作成(1) 読者の想定、文章の性格、文章の役割、テーマ、目標の規定	
3	日本語文書作成(2) 文書作成演習	
4	日本語文書作成(3) 文章の組立て(序論、本論、結論)序論の役割と書き方	
5	日本語文書作成(4) 本論の説明文の順序。構成結論の役割と書き方	
6	日本語文書作成(5) 段落の必要性、段落が満たすべき要件	
7	日本語文書作成(6) 段落の立て方、書き方、段落同士のつながり	
8	日本語文書作成(7) 文書作成演習	
9	日本語文書作成(8) 文書作成演習	
10	日本語文書作成(9) 文を書くときの心構え(巨視的視点から微視的視点へ)	
11	日本語文書作成(10) わかりやすい表現方法Ⅰ(短い文、格の正しい文)	
12	日本語文書作成(11) わかりやすい表現方法Ⅱ(誤解されない文、読みやすい文にするための書き方)	
13	日本語文書作成(12) 文書作成演習	
14	日本語文書作成(13) 文書作成演習	
15	プレゼンテーション(14) 作文とプレゼンテーション(口頭発表)との違い、発表原稿の作成、構成、内容の取舍選択	
16	プレゼンテーション(15) 提示資料の作成法(グラフ、表、箇条書き、文章)、資料の説明方法	
17	プレゼンテーション(16) 口頭発表演習・指導	
18	プレゼンテーション(17) 口頭発表演習・指導	

評価方法	作文演習(70%)、プレゼンテーション演習(30%)
教科書及び参考書	教科書：理科系の作文技術(木下是雄:中公出版:ISBN4-12-100624-0)
主な使用機器等	パソコン、プロジェクタ、プリンタ
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		統計学 (Statistics)	2単位 (36H)	横山 真弘
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	2年次後期		必須	

授業の目的と概要

【目的】統計学の基本的な内容を使ってデータを統計処理し、データから判断ができるようになる。

【概要】標本空間、確率変数、確率分布などの基本事項を理解し、統計的分析の基本事項を習得することで、工学データの処理と分析ができるようになる。さらに、統計処理されたデータから、論理的に正しく判断することができるようになる。

到達目標

1. 確率変数、ベイズの定理、確率密度関数、分布関数などの基本事項を説明できるようになる。
2. 記述統計学と推測統計学の違いを理解し、データに対して適切な統計的手法を用いることができるようになる。
3. 統計的仮説検定を使いこなし、データから判断することができるようになる。

授業計画

授業計画		備考
1	ガイダンス, 順列と組合せ	
2	集合, 事象と確率	
3	条件付き確率, 独立性	
4	ベイズの定理1	
5	ベイズの定理2	
6	離散型確率変数, 連続型確率変数	
7	確率密度関数, 分布関数	
8	中間試験	
9	二項分布, ポアソン分布	
10	正規分布, 指数分布	
11	点推定, t分布, F分布	
12	区間推定	
13	統計的仮説検定 その1	
14	統計的仮説検定 その2	
15	相関係数	
16	回帰分析1	
17	回帰分析2	
18	期末試験	

評価方法

出席課題(20%)、中間試験(40%)、期末試験(40%) により評価する。

教科書及び参考書

自作テキスト

主な使用機器等

その他

総合課程 シラバス

科名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英語名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		英語Ⅲ (English Ⅲ)	2単位 (36H)	熊谷 由里子 大味 潤(外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目		必修/選択	
授業形態	演習			
履修年次 開講時期	2年次前期		必修	

授業の目的と概要	
目的(上位目標)	「英語Ⅰ、Ⅱ」で身につけた英語基礎力の上に、さらに実践的な英語力を養う。技術者として必要な英語リテラシーを身につける。
概要	英語の語彙力を増やし、標準的な英文を正しく読み取ることができ、書いたり伝えたりすることができる。 1. 英文構成の文法をしっかり勉強して正しい英文を構成できるよう練習を行う。 2. 英文を正しく読み取れるよう、また自分でも書いたり伝えたりできるよう練習する。 3. TOEIC等の検定試験に対応できるよう演習する。
授業の目標	英文の内容を正しく把握できること、また正しい英文を作り、口頭で伝えられるようになることを目標とする。 また、TOEIC等の検定試験に対応できる力を身につける。

到達目標	
英文の内容を正しく把握できること、また正しい英文を作り、口頭で伝えられるようになることを目標とする。 またTOEIC等の検定試験に対応できる力を身につける。	

授業計画					
Basic Literacy for the Sciences (P&Tクラス)		Outstanding Monozukuri Companies in Japan (Uクラス)		English Checklist (共通)	小テスト(共通)
1	イントロダクション	イントロダクション		1.自動詞	
2	Unit 1: Numbers	Unit 1: マツダ		2.他動詞	
3	Unit 2: Mathematics	Unit 1: マツダ			Check test: Unit 1-2
4	Unit 3: Mathematical symbols	Unit 2: ハウス食品		3.基本時制	
5	Unit 1-3の確認	Unit 2: ハウス食品		4.進行形、完了形	
6	Unit 4: Sciences	Unit 3: TOTO			Check test: Unit 3-4
7	Unit 5: Engineering	Unit 3: TOTO		5.句動詞	
8	Unit 6: Wind power	Unit 4: シマノ		6.名詞	
9	Unit 4-6の確認	Unit 4: シマノ		7.冠詞	
10	Unit 7: Solar Power	Unit 5: マツダデザイン			Check test: Unit 5-7
11	Unit 8: Earthquakes	Unit 5: マツダデザイン		8.代名詞	
12	Unit 7-8の確認	復習		9.形容詞	
13	前期振り返り: 実力テスト			10.副詞	
14	Preparation for oral test				Check test: Unit 8-10
15	筆記試験				
16	口頭試験				
17	再指導				
18	再試				

評価方法	小テスト30%、口頭試験30%、期末筆記試験40%
------	---------------------------

教科書及び参考書	<u>Basic Literacy for the Sciences</u> by Sakae Suzuki, Jethro Kenney, KINSEIDO, ISBN: 9784764740099(P&Tクラス) <u>Outstanding Monozukuri Companies in Japan</u> by Narumi Yoshino他, SHOHAKUSHA, ISBN: 9784881987445 (Uクラス) <u>English Checklist</u> , by Hidehiko Konaka, Nan'un-do, ISBN: 9784523176268 (共通)
主な使用機器等	

総合課程 シラバス

科名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		英語 IV (English IV)	2単位 (36H)	熊谷 由里子 大味 潤(外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目		必修/選択	
授業形態	演習			
履修年次 開講時期	2年次前期		必修	

授業の目的と概要	
目的(上位目標)	「英語Ⅰ～Ⅲ」で身につけた英語基礎力の上に、さらに実践的な英語力を養う。技術者として必要な英語リテラシーを身につける。英語の語彙力を増やし、標準的な英文を正しく読み取り、書いたり口頭で伝えたりすることができる。
概要	1. 英文構成の文法をしっかりと勉強して正しい英文を構成できるよう練習を行う。 2. 英文を正しく読み取れるよう、また自分でも書いたり伝えたりできるよう練習する。 3. TOEIC等の検定試験に対応できるよう演習する。
授業の目標	英文の内容を正しく把握できること、また正しい英文を作り、口頭で伝えられるようになることを目標とする。 また、TOEIC等の検定試験に対応できる力を身につける。

到達目標
英文の内容を正しく把握できること、また正しい英文を作り、口頭で伝えられるようになることを目標とする。 またTOEIC等の検定試験に対応できる力を身につける。

授業計画				
Basic Literacy for the Sciences (P&Tクラス)	VOA News Plus (Uクラス)	English Checklist (共通)	小テスト(共通)	
1	Unit 9 : Hurricanes	Unit 6 : UCC上島珈琲	11.態	
2	Unit 10: Volcanoes	Unit 6 : UCC上島珈琲	12.不定詞	
3	Unit 11: Wi-Fi	Unit 7: DAIFUKU	13.動名詞	Check test: Unit 11-12
4	Unit 12: Robots	Unit 7: DAIFUKU	14.分詞	
5	まとめ: Unit 9-12	Unit 8: サクラクレパス	15.前置詞	Check test: Unit 13-14
6	Unit 13: Additive Manufacturing	Unit 8 : サクラクレパス	16.接続詞・疑問詞	
7	Unit 14: Elements	Unit 9: ヤンマー	17.関係詞	Check test: Unit 15-16
8	Unit 15: Matter and Energy	Unit 9: ヤンマー	18.比較	
9	まとめ: Unit 13-15	Unit 10: 山岡孫吉の生涯	19.否定	Check test: Unit 17-18
10	科学技術英文の演習(1)	Unit 10: 山岡孫吉の生涯	20.仮定法	
11	科学技術英文の演習(2)	Unit 11: オタフクソース		Check test: Unit 19-20
12	Vocabulary のまとめ	Unit 11: オタフクソース		
13	Preparation for oral test			
14	Preparation for oral test			
15	口頭試験			
16	筆記試験(期末試験)			
17	試験の振り返り			
18	再試験			

評価方法	小テスト30%、口頭試験30%、期末筆記試験40%
------	---------------------------

教科書及び参考書	<u>Basic Literacy for the Sciences</u> by Sakae Suzuki, Jethro Kenney, KINSEIDO, ISBN: 9784764740099(P&Tクラス) <u>Outstanding Monozukuri Companies in Japan</u> by Narumi Yoshino他, SHOHAKUSHA, ISBN: 9784881987445 (Uクラス) <u>English Checklist</u> , by Hidehiko Konaka, Nan'un-do, ISBN: 9784523176268 (共通)
主な使用機器等	

総合課程 シラバス

科名: 総合課程

訓練科目の区分		授業科目名 (英語名)	単位数 (時間数)	担当者
教育訓練課程	一般教育(外国語)	ビジネスコミュニケーションⅠ (Business CommunicationⅠ)	2単位 (36H)	半田 純子 大味 潤(外部講師)
教科の区分	講義		必修/選択	
教科の科目	2年次前期		必修	

授業の目的と概要

【目的】(上位目標)「オーラルコミュニケーションⅠ」及び「オーラルコミュニケーションⅡ」で身につけた音声英語の基礎学力を基に、「ビジネスコミュニケーションⅠ」と同様に引き続きグローバル化時代のビジネス社会で必要とされる英語でのコミュニケーション能力の基礎力を養成する。

【概要】「ビジネスコミュニケーションⅠ」と同様に、引き続きビジネス環境での様々な場面別の英語表現で構成されている教材を使用して、実践的なコミュニケーションの場面で使える語彙や文法、定型表現の練習から、コミュニケーションの目的を達成する内容中心の言語活動に至るまで様々なタスクを行う。

到達目標

実際のビジネスコミュニケーション場面で使われる基礎的な語彙や定型表現を理解して、事前に準備をすればそれらの言語要素を使って簡単なコミュニケーションを行うことができるようになる。

授業計画			備考
1	Introduction: ガイダンス	Lesson1: 目的を告げる	
2	Chapter1: Office	Lesson2: 初体面をする	
3	Chapter2: Restaurant	Lesson3: 名詞を渡す	
4	Chapter3: Department Store	Review Test	
5	Review Test , Chapter4: Airport	Lesson4: 電話をつなぐ	
6	Chapter5: Bank	Lesson5: 電話のトラブル	
7	Chapter7: Duty-free Shop	Lesson6: 海外の空港で	
8	Review Test , Chapter8: Travel	Review Test	
9	Chapter 9: Rent-a-Car	Lesson7: 丁寧に依頼する	
10	Chapter 10: Fitness Center	Lesson8: 伝言を承る・残す	
11	Review Test ,	Lesson9: 問い合わせをする	
12	復習	Review Test	
13	Examination(筆記)		
14	Preparation for Oral Test		
15	Oral Test (1)		
16	Oral Test (2)		
17	End-of-the-Semester Review		
18	学習内容の振り返り		

評価方法	課題とReview Test(30%)、試験(筆記)(40%)、Oral Test(30%)
教科書及び参考書	Listening Promoter for the TOEIC Test, 成美堂, ISBN: 9784791912902 A Shorter Course in ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICAATION, 南雲堂, ISBN:9784523178705
受講要件	音声英語の基本的な規則について完全ではなくても、誤りを指摘された際には、自力で訂正できる程度の定着度が前提である。

総合課程 シラバス

科名: 総合課程

訓練科目の区分		授業科目名 (英語名)	単位数 (時間数)	担当者
教育訓練課程	一般教育(外国語)	ビジネスコミュニケーションⅡ (Business CommunicationⅡ)	2単位 (36H)	半田 純子 大味 潤(外部講師)
教科の区分	講義		必修/選択	
教科の科目	2年次後期		必修	

授業の目的と概要

【目的】(上位目標)「オーラルコミュニケーションⅠ」及び「オーラルコミュニケーションⅡ」で身につけた音声英語の基礎学力を基に、「ビジネスコミュニケーションⅠ」と同様に引き続きグローバル化時代のビジネス社会で必要とされる英語でのコミュニケーション能力の基礎力を養成する。
【概要】「ビジネスコミュニケーションⅠ」と同様に、引き続きビジネス環境での様々な場面別の英語表現で構成されている教材を使用して、実践的なコミュニケーションの場面で使える語彙や文法、定型表現の練習から、コミュニケーションの目的を達成する内容中心の言語活動に至るまで様々なタスクを行う。

到達目標

実際のビジネスコミュニケーション場面で使われる基礎的な語彙や定型表現を理解して、事前に準備をすればそれらの言語要素を使って簡単なコミュニケーションを行うことができるようになる。

授業計画			備考
1	Introduction: ガイダンス	Lesson10: アボを取る	
2	Chapter11: Job Training	Lesson11: はっきりと要求を述べる	
3	Chapter13: Business Trip	Lesson12: 詫びる	
4	Chapter14: Vacation Chapter	Review Test	
5	Review Test , Chapter15: Pay	Lesson13: アボを取る2	
6	Chapter16: Exhibition	Lesson14: 不在を知らせる	
7	Chapter17: Shopping	Lesson15: 理解の確認をする	
8	Review Test , Chapter19: Hospital	Review Test	
9	Chapter20: Train Station	Lesson16: 添付の案内をする	
10	Chapter21: Presentation	Lesson17: 求人について問い合わせる	
11	Review Test	Lesson18: 提案をする	
12	復習	Review Test	
13	Examination(筆記)		
14	Preparation for Oral Test		
15	Oral Test (1)		
16	Oral Test (2)		
17	End-of-the-Semester Review		
18	学習内容の振り返り		

評価方法	課題とReview Test(30%)、試験(筆記)(40%)、Oral Test(30%)
教科書及び参考書	Listening Promoter for the TOEIC Test, 成美堂, ISBN: 9784791912902 A Shorter Course in ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNCAATION, 南雲堂, ISBN: 9784523178705
受講要件	音声英語の基本的な規則について完全ではなくても、誤りを指摘された際には、自力で訂正できる程度の定着度が前提である。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者
全専攻		健康科学 II (Health and Sport Sciences II)	2単位 (36H)	片瀬 文雄 (外部講師)
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	演習		必修/選択	
履修年次 開講時期	2年次後期		必修	

授業の目的と概要
<p>【目的】 生涯に渡って、健康的な生活の質の向上(QOL の向上)を具現化するために、精神的・身体的に健康な状態を維持・改善するための知識を学び、実践的な方法を学習、習得することを目的とする。</p> <p>【概要】 生活習慣病の予防における基礎的な理論とウエイトコントロールを理解する。個人的、集団的なスポーツの実践を通して、個人の健康状態や体力の維持向上および各種スポーツのルール、審判法を実践から学習する。各学科 4 クラスごとに分けて実施する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 個人的、集団的なスポーツゲームを実際に行うことで、実践身体的に良好な健康状態を維持、向上できる。 2 生活習慣病予防とウエイトコントロールの理論を理解し、運動習慣が確保できる。 3 他者と協調し、安全を第一に留意し、かつ学習者間で安心して身体活動が実施できる公平公正な社会性を習得すること。

授業計画		備考
1	授業ガイダンス 概要と目的 到達目標と評価方法 安全な施設の使用法	
2	簡便な体力 スポーツ測定による行動体力と防衛体力の自己評価方法について ①	
3	簡便な体力 スポーツ測定による行動体力と防衛体力の自己評価方法について ②	
4	バドミントン1 ルールとマナー 器具の使用法 審判法の理解	
5	バドミントン2 ダブルスゲームのルール 基本的技能の習得、練習ゲームによるリーグ分け	
6	バドミントン3 ダブルスゲーム① リーグ戦形式	
7	バドミントン4 ダブルスゲーム② リーグ戦形式	
8	バドミントン5 ダブルスゲーム③ リーグ戦形式	
9	バドミントン6 ダブルスゲーム④ リーグ戦形式	
10	バドミントン7 ダブルスゲーム⑤ リーグ戦形式	
11	バドミントン8 ダブルスゲーム⑥ リーグ戦形式	
12	ソフトバレーボール1 ルールとマナー、基本動作の習得 練習ゲームによるリーグ分け	
13	ソフトバレーボール2 リーグ戦形式	
14	ソフトバレーボール3 リーグ戦形式	
15	総合的な技能のまとめと実技試験1	
16	総合的な技能のまとめと実技試験2	
17	まとめと筆記試験1	
18	まとめと筆記試験2	

評価方法	出席点(学習意欲や態度)を重視する。評点は出席点(60%)、実技試験(20%)、筆記試験及びレポート(20%)
教科書及び参考書	講義内容に即した講義レジュメを配布する 観る前に読む大修館スポーツルール2017 大修館書店編集
主な使用機器等	バドミントンラケット、シャトル、ソフトバレーボール、ソフトバレーボール用支柱、得点版、スポーツタイマー、体重計、体脂肪率計
その他	運動に適した服装及び靴を着用すること。傷害や疾病等を有し通院中を含めて治療中の者は申し出ること 自己の健康状態に関心があり、健康診断の結果も理解している 身体活動やスポーツ活動を実践する上での医学的な問題の有無について把握している

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名: 総合課程

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数 (時間数)	担当者 (ユニット名)
全専攻		生産工学概論 (Introduction to Industrial Engineering and Management)	2単位 (36H)	和田 雅宏
科目・コース 区分	一般教育科目			
授業形態	講義		必修/選択	
履修年次 開講時期	2年次後期		必修	

授業の目的と概要

本科目の目的は、ものづくりのプロセスにおいて、生産工学の各手法を体系的に提案できることを目指すことである。そこで、ものづくりにおける生産工学の各手法を用いてプロセスを進める方法を理解する。

到達目標

本科目の目標は、ものづくりのプロセスにおいて、適用できる生産工学の各手法を説明できることとする。

1. 生産工学の基本的な考えを説明できる。
2. 開発・設計段階における設計構想の評価手法を説明できる。
3. 生産準備段階における生産性の評価手法を説明できる。
4. ものづくりのプロセスにおいて、適用できる生産工学の各手法を体系的に提案できる。

授業計画

授業計画		備考
1	生産工学の定義と基本的な考え方	
2	生産システムと生産管理方式	
3	受注予測、販売計画	
4	開発・設計の考え方	
5	DFX、デジタルエンジニアリング	
6	生産準備、工程設計	
7	受注管理、出荷管理	
8	製品計画・技術情報管理	
9	資材購買管理と在庫管理	
10	工程管理と作業管理	
11	品質管理と原価管理	
12	設備管理と信頼性	
13	工場法規・規格	
14	生産の自動化と生産管理情報システム	
15	生産工程の自動化とFMS・部品供給などの自動化機器	
16	工場における生産情報の管理と活用	
17	期末試験	
18	期末試験	

評価方法

小テスト(15%)、演習(15%)、期末試験(70%)

教科書及び参考書

教科書: 自作テキスト

主な使用機器等

プロジェクタ、パソコン、JUSE-StatWorks/V5

その他